

相手を「許せない。」と思って  
しまったことって、あるかな。



8 この胸むねの痛いたみを



わたし  
私と由希と朝実あさみは、仲よし三人組だ。

ある朝、私わたしが教室に入ると、由希ゆきと朝実あさみが楽しそう

に話をしていました。しかし、

私わたしに気がつくふたりと、二人は話すのをやめてしまった。ど

うしたのかなと思ったが、

そのときは、あまり気に留めなかった。



朝実あさみ

由希ゆき

けれど、その日の昼休み、私が朝実わたし あさみに話しかけると、

「ちょっと用事があるから、また後でね。」

と言われた。そんなことが何度か続き、私はわたし、朝実あさみにさけられていたように感じ始めた。私はわたしは気になって、由希ゆきに相談してみた。すると、由希ゆきは、

「言いにくいんだけど——。朝実あさみ、あなたと遊びたくないんだって。理由は、私わたしにも分からないけど。朝実あさみって、勝手なところがあるよね。ときどき私わたし、腹はらが立つんだ。」  
 と言った。確かに私わたしも由希ゆきも、活発な朝実あさみの言いなりになっ  
 ていたようなところがあったので、由希ゆきの言うことも分か

る気がした。

それから、私わたしと朝実あさみは話すことも少なくなっただが、朝実あさみと由希ゆきは、これまでと同じように仲よく遊んでいた。私は、ひとり一人で本を読んだり、他の友達ともだちと遊んだりして過ごすようになった。

一週間がたった。さびしい気持ちでいたとき、となりの席こうじの広二ひろじさんが、

「最近、いつもの三人でいっしょにいないね。どうしたの。ときいてきた。私わたしは思わず、

「実は、二人ふたりからさけられているような気がして、近づき

にくいんだ。」

と言って、ため息をついた。すると、広こうじ二さんは、

「気になっているなら、きいてみれば？ 自分の思いこみ  
かもしれないし。ちゃんときいたほうがいいよ。」

と言ってくれた。

その言葉に後おしされて、私わたしは、思い切って朝実あさみに声を

かけてみた。

「朝実あさみ。私わたし、あなたに何かしたのならあやまるよ。ごめん

ね。これまでみたいに仲よくしたいんだ。」

朝実あさみは、



「えっ。私わたしがきらわれている

んだと思ってた。」

と、おどろいた様子だった。

そして、

「由希ゆきから、あなたが私わたしの悪

口を言っていると聞いて、

話しかけにくかったんだ。

そうか。由希ゆきが、私わたしたちを

引きはなそうとしたんだね。

許せない。ねえ、由希ゆきを無む

視しようよ。」

と言った。私は、由希のことは少し気になったが、「由希のせいなんだから、当然だ。」と思った。

翌日から、私と朝実は、由希を無視するようになった。

それから何日かたった日の放課後、プリントを忘れたことに気づいて教室にもどると、一人さびしそうに窓の外を見ている由希がいた。その姿を見て、自分が独りぼっちだったときのつらかった思いがよみがえってきた。

私は、どんどん胸が痛くなってきた。

この胸の痛みを、どうすればいいのだろう。

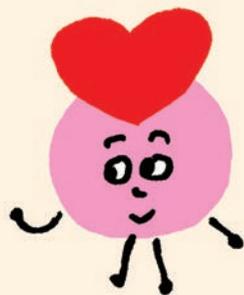
編集委員会作



丹地陽子たんじようこ絵



考えよう・話し合おう



「広い心」とは、どんな心だろう。

● 朝実あさみから「由希ゆきを無視むししようよ。」と言われたとき、  
「私わたし」は、どんなことを考えたでしょう。

◎ 「私わたし」の胸むねが痛いたむのは、  
どんな思いがあるからでしょう。

●この後、「私」<sup>わたし</sup>が由希<sup>ゆき</sup>に話しかけるとしたら、二人<sup>ふたり</sup>は、  
どんな話をすると思いますか。演じてみましょう。

## つなげよう

「広い心」って、どうして必要なんだろう。  
「広い心」がないと、どうなってしまうかな。

